

# 加東市におけるコンビニエンスストアの立地と展開

今田 健太郎

キーワード：加東市，コンビニエンスストア，立地，アンケート

## 1. はじめに

近年コンビニエンスストア（以下 CVS）は、すっかり生活に欠かせないものとなった。しかし、CVS の立地に関する研究は、東京都練馬区、京都市、横浜市、秋田市など大都市圏や地方大都市を対象地域としたものがほとんどで、地方中小都市を対象地域とした研究はほとんどみられない。本研究では兵庫県において地方中小都市でありながら、CVS 全店舗年間売上高第 1 位のセブン-イレブンをはじめ年間売上高上位の CVS が進出し、市の人口に対して CVS 間の競争が激しい地域である加東市を対象地域として設定する。対象地域を地方中小都市に設定することによって、大都市を対象地域とした研究では困難であった、CVS 店舗 1 店舗ずつを対象としたアンケート調査や聞き取り調査のようなより細かな立地特性や立地展開について明らかにすることができる。

## 2. CVS の定義

現在、日常生活において身近な存在となっている CVS であるが、その定義は未だに曖昧であり統一されたものは確定されていない。

経済産業省（旧通商産業省）が 1 年に 1 度おこなっている「商業統計調査」における CVS の定義は、「売場面積は 30 m<sup>2</sup>以上 250 m<sup>2</sup>未満、営業時間は 14 時間以上、取扱商品は飲食料品を取り扱っていること」としている。また、本研究内で CVS の検索に用いている Web サイト「i タウンページ」(NTT 番号情報株式会社)における CVS の定義をうかがったところ、回答によるとタウンページ設定業種は、総務省が発行している日本標準産業分類や各種業界の資料等を参考に設定しているため、タウンページに特化した業種の定義はないとのことであった。なお、日本標準産業分類では商業統計調査における CVS の定義を用いている。本研究における CVS の定義は Web サイト「i タウンページ」において、業種コンビニエンスストアに含まれる店舗とする。

## 3. 加東市における CVS

加東市は、兵庫県中央部やや南よりに位置し、総面積は 157.49 km<sup>2</sup>で、兵庫県では 41 市町中 20 番目の大きさである。総人口は 39956 人（2007 年 12 月推計）で兵庫県では 41 市町中 26 番目であり、人口密度は 253.591（人口/km<sup>2</sup>）で兵庫県では 41 市町中 27 番目と、さほど大きな市ではないことがうかがえる。交通においては、鉄道は JR 加古川線の社町駅、滝野駅、滝駅があり、山陽本線加古川駅と結ばれている。道路は阪神地域と直結の高速道路である中国自動車道が横断しており、ひょうご東条インターチェンジ、社パーキングエリア、滝野社インターチェンジがある。国道については、国道 175 号が縦断し、国道 372 号が横断しており物流の拠点となっている。

加東市において、CVS の店舗は 20 店存在（2008 年 1 月現在）し、兵庫県では市町 41 中 18 番目の店舗数で、他の市町と比べて決して多くはない。しかし、人口 1000 人当りにおける CVS 店舗数をみると、新温泉町に次いで 2 番目である。しかも、県全体の人口 1000 人当りの CVS 店舗数が 0.28 であるのに対し、加東市は 0.501 であり、1 番目の新温泉町と加東市だけが 0.5 を超えている。

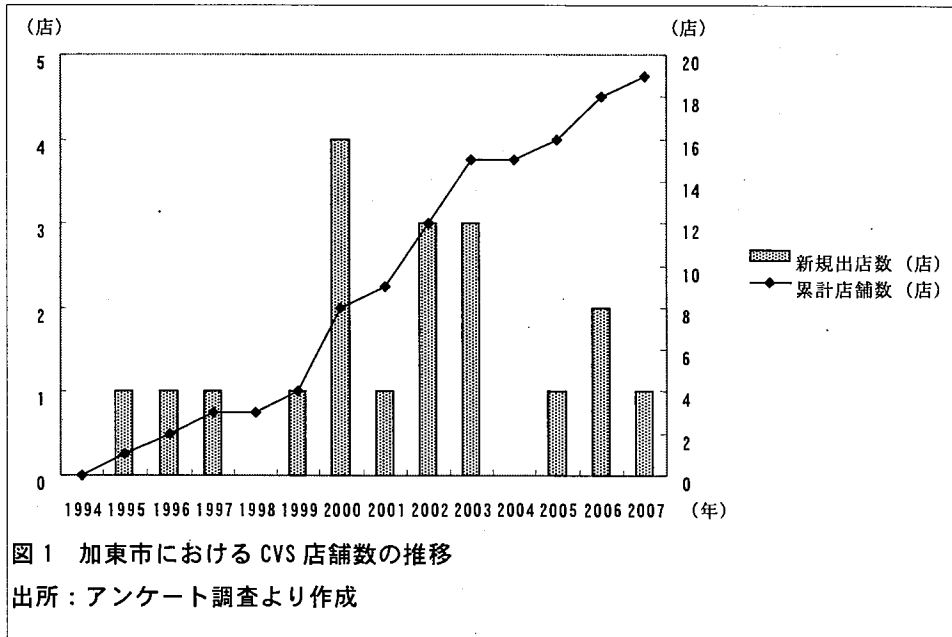


図1をみると、加東市において廃業店を除いてCVSの出店が始まったのは1995年であり、大都市圏と比べて約20年のタイムラグがある。以後、店舗数はほぼ一貫した増加傾向にある。

次に、立地地点別にみた店舗の立地展開について検討する。立地地点については、「国道沿い」、「県道沿い」、「その他」の3つに分類する。「国道沿い」とは、国道175号線と国道372号線と中国自動車道沿いに立地するものとする。「県道沿い」とは、各県道沿いに立地するものとする。「その他」は、以上の2例に該当しないものとする。

表1 加東市におけるCVSの立地タイプ

立地地点	店舗数
「国道沿い」	9 (45%)
「県道沿い」	10 (50%)
「その他」	1 (5%)
合計	20 (100%)

出所：現地調査より作成

表1をみると、加東市におけるCVSの立地地点は「国道沿い」と「県道沿い」がほとんどを占めている。ただ1店舗「その他」に該当した店舗は大学の構内であるため、それ以外の店舗全てが「国道沿い」、「県道沿い」に該当したことになる。これは、過去の大都市圏での研究ではみられなかった結果であり、加東市という交通機関が限られモータリゼーションが進んだ地方中小都市であるからこそみられた結果である。加東市においては、JRの駅が3つあるにも関わらずその周辺にほとんど出店がみられないこと、また、駐車場の土地の確保が困難である商店街内への出店もほとんどみられないことも地方中小都市におけるCVSに関する立地の特徴であるといえる。

#### 4. 加東市における CVS へのアンケート調査の分析

CVS 経営の特色を検討するため、加東市内の CVS 全 20 店舗を対象にアンケート調査を実施し、うち 18 店舗から回答を得た。その内容は、過去の研究においてアンケート調査で実施された内容をもとに、①開業年月日、②売場面積、③営業時間、④駐車場収容台数、⑤店舗の土地所有形態、⑥職住関係、⑦店舗運営スタイル、⑧CVS 経営以前の職種、⑨立地における環境要因、⑩お客様の移動手段の印象、⑪酒・タバコの取り扱いの 11 項目である。なお、売場面積、職住関係、CVS 経営以前の職種に関しては、特に顕著な特徴がみられなかったため、取り扱わないこととする。

駐車場収容台数に関しては、まず大都市圏では駐車場のない CVS もあるにも関わらず、調査対象の全 CVS が駐車場を有している。収容台数をみると、「ファミリーマート社パーキングエリア店」は、中国自動車道のパーキングエリア内にあるため、例外的な数字になってしまうが、それを除いても普通車の平均収容台数は 15.8 台、大型車の平均収容台数は 4.7 台と、CVS の全国的な平均収容台数 3.5 台を大きく上まっている。このことから、加東市においては自動車による来店者を意識した店舗の立地が行われている。

店舗の土地所有形態に関しては、CVS の形態としては例外的な「ファミリーマート社パーキングエリア店」、「am/pm 東条インターパーク店」を除き、全ての店舗が借地経営を行っている。これは、チェーン本部が用意した土地で経営を行っているということである。秋田市における研究では、土地所有形態と職住関係に関係性がみられたが、加東市においては顕著な特徴はみられなかった。

立地における環境要因に関しては、回答のあった 18 店舗中、16 店舗が主要道路沿いを選択しており、やはり、自動車による来店を意図した店舗の立地が行われている。来店者の移動手段の印象に関しても、大学構内にある「Y ショップ兵庫教育大学店」を除いて全ての店舗が、自動車による利用の印象が一番強いと回答している。

酒・タバコの取り扱いに関しては、酒類の販売を行うには酒類販売業免許が必要で、この免許は酒類販売業免許制度として制度化されている。タバコの取り扱いに関しては、たばこ小売販売業許可を申請し、許可が下りなければ販売はできない。酒に関しては、2003 年 9 月に地域ごとに人口当たりの免許枠を定めていた「人口基準」が廃止され、さらに 2006 年 9 月には既存業者を保護する「緊急調整地域」の指定もなくなり、実質完全自由化となった。加東市においても 2003 年には 5 店舗、2006 年には 3 店舗が取り扱いを始めている。タバコについても、1998 年より、財務省による製造たばこの小売販売の許可「規制緩和 3 か年計画」により販売の規制緩和がなされ、加東市においても 3 か年計画が完了した 2001 年から 3 年続けて 3 店舗が取り扱いを始めている。

アンケートや聞き取り調査によって、加東市の CVS の店舗の中にいくつか特殊な例の店舗が存在することがわかった。そこで、より細かく店舗ごとに実態をみる。

まず、「am/pm 東条インターパーク店」であるが、この店舗は名前の通り、中国自動車道上りのひょうご東条インターチェンジ入り口付近に位置し、「道の駅とうじょう」の中に存在している。「道の駅」は、国や県が基本的な施設である駐車場やトイレを整備し、市町村、またはそれに代わり得る公的な団体（ほとんどは第三セクター）が地域側施設を設置する形が取られる。聞き取り調査によると「道の駅とうじょう」内にある「am/pm 東条インターパーク店」は、地域利便性施設として市の管理を受けているという。よって、アンケート調査においても、ほとんどの項目がその他となっている。

「ヤマザキショップふじわら店」は、聞き取り調査によると 1996 年 9 月に「セイコーマートふじわら店」として出店していたが、2003 年、「ヤマザキショップふじわら店」として新たに出店したという。ヤマザキショップ（Y ショップ）は、主に個人経営の個人商店や雑貨店などが転換するための業態であり、山崎製パンという共通仕入れ先を持つ個人商

店システムとでもいうべきもので、広義的にみればフランチャイズの一つといえるが、一般的の CVS とは性質がかなり異なるものであり、店舗契約は比較的ゆるやかなものになっている。店舗運営に関して本部である山崎製パンは基本的に介入しない分、他の CVS チェーンよりもロイヤリティーや機器リース料が低く、フランチャイズでの CVS よりも緩やかな契約であり、CVS チェーンの店舗などからの転換も多い。

ファミリーマート社パーキングエリア店は、2003年7月、兵庫県内の高速道路及び中国自動車道における CVS としては初めての出店を果たした。そのため、アンケート調査の運営スタイルの項目において、加東市で唯一直営店の形をとっている。駐車場の収容台数についても、中国自動車道のパーキングエリア内なので普通車 80 台、大型車 30 台と例外的な数字になっている。通常店舗の商品とサービスのほかに、お土産品、ハイウェイカードの販売、行楽関連商品、カー用品など PA ならではの商品が扱われている。また、店内には休憩スペースが設けてあり、全国のファミリーマートでも初となる「焼きたてパン」コーナーが設置されている。

## 5. おわりに

本研究において、加東市における CVS の立地と展開をふまえた上で、その立地特性について考察してきた。CVS の時系列的な立地展開、立地地点の分類、アンケート調査の分析、個別店舗への聞き取り調査などの項目から考察を進めた結果、以下の4つが明らかになった。①CVS は時期を経るごとに店舗数が増加し、特にセブン-イレブンが「ドミナント方式」の出店により、その数を増やしてきた。②CVS のほとんどが「国道沿い」、「県道沿い」に立地し、自動車による来店者を意識している。③アンケート調査において、特に立地地点の分類とも関連して、駐車場の収容台数や、来店者の移動手段の印象の質問項目が特徴ある回答を示していた。④聞き取り調査によると、「am/pm 東条インターパーク店」、「ヤマザキショップふじわら店」、「ファミリーマート社パーキングエリア店」のような特殊なタイプの CVS が存在している。

本研究では、加東市における CVS の立地と展開について考察し、「なぜ加東市には CVS が多いのか」という疑問の答えを明確にすることができなかった。今後、立地タイプの分析やアンケート調査の駐車場収容台数や来店者の移動手段の印象の結果から、自動車の保有率や交通量との関係性があると推測されることから、それらの観点からの考察をさらに深めていきたい。

## 参考文献

- 荒木俊之 (1994) : 京都市におけるコンビニエンスストアの立地展開, 人文地理 46-2, pp. 83-93.  
高橋美香子 (1997) : 秋田市におけるコンビニエンスストアの立地特性, 秋大地理 44, pp. 39-44.  
大高寛幸 (2000) : 横浜市におけるコンビニエンスストアの立地展開, 国土舘大学地理学報告 9, pp. 23-38.  
i タウンページ (<http://itp.ne.jp/>)  
兵庫県 Web ページ (<http://web.pref.hyogo.jp>)  
加東市 Web ページ (<http://www.city.kato.lg.jp>)  
統計局 Web ページ (<http://www.stat.go.jp/index.htm>)

## The Locational Pattern of Convenience Stores in Kato City

IMADA Kentaro

Key Words: Kato City, convenience stores, location, questionnaire